

2024年12月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回1月のてがたんは1月11日(土)で、テーマは「鳥インフルエンザから鳥たちを守ろう」です。ぜひご参加ください。1月6日(月)の8時30分から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は1月5日(日)です。

12月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼ふれあいライン→香取神社→桃山公園→けやき広場
- 観察日時と天気：2024年12月14日(土) 10:00~12:00 晴れ
- 参加人数：13名(大人11名、子ども2名)
- 市民スタッフ：5名(伊東茂子、石原直子、北村章子、小泉伸夫、湯瀬一栄)
- 博物館友の会：1名(古澤紀元)
- 鳥博職員：1名(望月みずき)

観察した生き物の記録

下見で見られたものも含む。

【鳥類】カモ科：マガモ、カルガモ、コガモ／サギ科：アオサギ／クイナ科：オオバン／モズ科：モズ／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／エナガ科：エナガ／メジロ科：メジロ／ヒタキ科：ジョウビタキ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ／ホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン
家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)／ドバト(ハト科)

【昆虫】トンボ目：アキアカネ／バッタ目：マダラスズ、コバネイナゴ／カメムシ目：イセリアカイガラムシ、ヨコツナサシガメ、キバラヘリカメムシ(卵)、キマダラカメムシ／チョウ目：ヤマトシジミ、モンシロチョウ／コウチュウ目：ナミテントウ、ヒメカメノコテントウ

【草の花】タデ科：イヌタデ／アブラナ科：タネツケバナ、イヌガラシ／カタバミ科：カタバミ／ムラサキ科：ハナイバナ／シソ科：ホトケノザ／ナス科：アメリカイヌホオズキ／サギゴケ科：トキワハゼ／オオバコ科：オオイヌノフグリ／キク科：コセンダングサ、ハキダメギク、オオジシバリ、ノゲシ、ヒメジョオン、セイヨウタンポポ／イネ科：ササの仲間

【植物の実】ナス科：ヒヨドリジョウゴ／キク科：オニノゲシ／ユリ科：ヤブラン／ブナ科：スダジイ、コナラ

【木の花】クスノキ科：シロダモ／ツバキ科：カンツバキ／バラ科：ビワ

12月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「飛ぶんだね 不思議だね 種の観察」でした。てがたんコースではさまざまな種子散布の種を見ることができます。今回は特に風に乗って飛ぶ種に注目して探しました。香取神社から水神山古墳、桃山公園を通るルートで10種類ほどの飛ぶ種を見つけることができました。また、他にも冬ならではの花や昆虫を観察しました。



今月の案内人
伊東茂子



①コセンダングサの種。細かいトゲがあり、人や獣にくっつく。



②シマトネリコの種。葉のように見える翼があり、風で飛ぶ。



③真冬に咲くビワの花。



④キリの木の花芽。5月頃に咲く。

歩いたルートと観察した生き物



⑤キバラヘリカメムシの卵。



⑥モミジの種。薄い羽のような翼があり、風に乗って飛ぶ。



⑦ハンノキの球果。中に小さい種があり風や水に流されて運ばれる。



⑧スダジイの実。どんぐりの中でもアケが少なく美味しい。

今月の鳥 鳥と共に飛ぶ種

鳥は植物の種を広げる重要な役割を担っています。その一つは、鳥が木の実を食べ、どこかに移動して糞と共に種を落とす被食散布です。果実の果肉には発芽を抑制する成分などが含まれていますが、鳥が食べて消化することで、発芽率が上がることが知られています。また、ヒシの実やセンダングサのように鳥の羽毛に付着する種は、鳥の移動を利用して新たな生息地へと運ばれます。これを付着散布と呼びます。こうした「種の旅」は植物が生息地を拡大する助けとなります。それと同時に、被食散布は鳥も果実や種から栄養を得ることができ、相互に恩恵を受ける関係と言えるでしょう。



センダンの実を食べるヒヨドリ